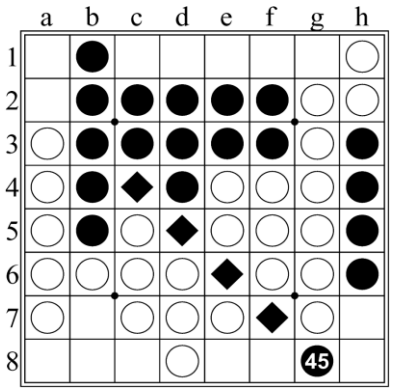
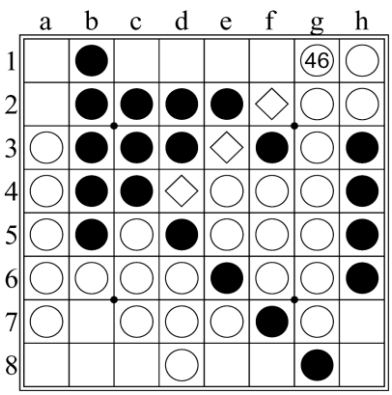
さて、誤答で20図の黒g8がありました。

これは実戦で私も打った手だったのですが、これが敗着となりました。20図からの白の最善は白h7→黒f8→白g1と右辺側で確定石を固めるのが最善で、白８石勝ちとなるのですが、実戦の白g1（21図）は、偶数理論を意識した手で、わかりやすい流れなのでこちらで説明します。白４石勝ちの形勢となります。

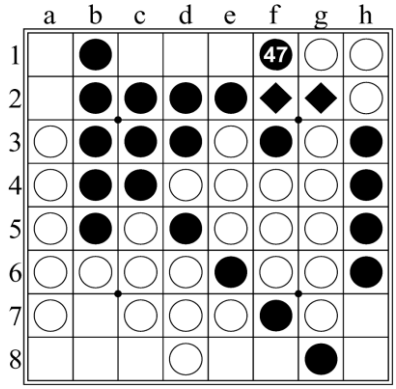
この局面（21図）で黒が勝つとしたら、左下の白から打てない４か所空きを保持した状態で黒a2と左辺ウイングに割り込み、黒a8・b8の連打をして逆偶数に仕留める以外はありません。私はここで黒f1（22図）と打ちましたが、これは偶数理論を後押しした悪手で差が開いてしまいました。次に白48（23図）を打たれると、黒はどうやっても左下の空きに傷をつけてしまいます。



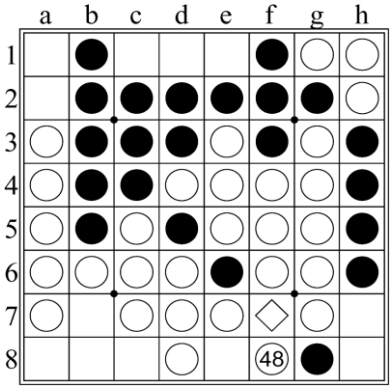
（20図）



（21図）

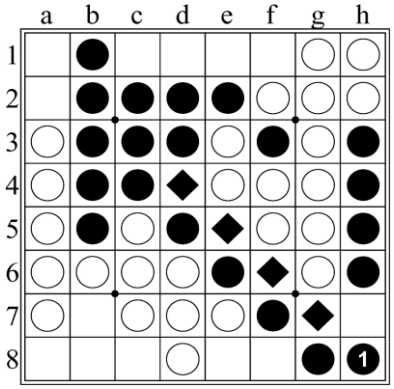


（22図）

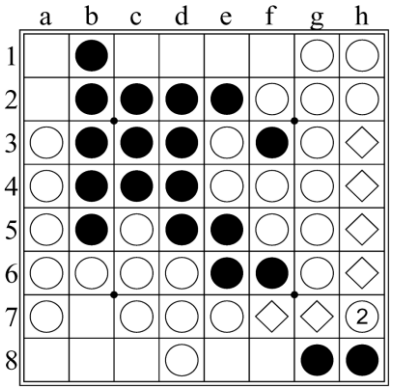


（23図）

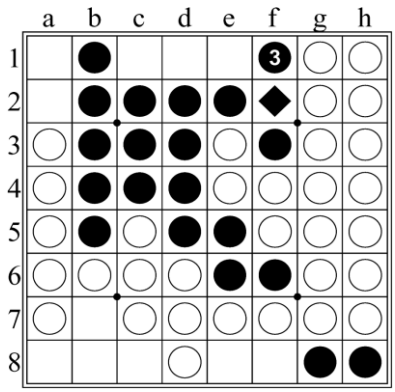
21図からの、黒の最善はh8（24図）です。白h7（25図）→黒f1（26図）で、黒が逆偶数形にすることができます。



（24図）



（25図）



（26図）

しかし、26図までででg列、h列を白に固められた代償は大きく、この後黒が逆偶数形に仕留めても、わずかに足りず、白４石勝ちとなるのです。